

# (持-11) さんりく養殖産業化プラットフォーム

[代表プロデューサー] 岩手大学三陸水産研究センター センター長 平井俊朗

[会員] 33機関(大学・企業・自治体等)と個人 (2025年12月現在)



プラットフォーム  
全体会議

## 1 研究開発プラットフォームの概要

地域の主幹産業である水産業に新たな業態としての給餌養殖を並立させることによる産業基盤強化や地域振興を目指すため、そのための志を共有する産官学及び異分野の組織・人材との交流や学習の場の運営と研究開発の主体となるコンソーシアムの形成を行う。主な活動として、①プロデューサー会議、全体会議の開催 ②専門家を招聘して勉強会の開催 ③研究コンソーシアムの形成・助言 ④先進地視察研修 を実施

## 2 研究開発コンソーシアムの概要と取り組み成果

### 活動の概要

#### ①釜石地域サクラマス養殖試験研究コンソーシアム (現在は活動終了)



#### ②はまゆりサクラマスプロモーションコンソーシアム

メンバー: 岩手県立大学(山本健教授)、釜石ヒカリフーズ㈱、㈱かまいしDMC、釜石・大槌地域産業育成センター、NTT東日本、岩手県、釜石市 オブザーバー 東北銀行、日本大学芸術学部、岩手大学三陸水産研究センター

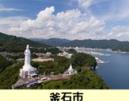
プロモーションのゴールを「商品のファン」、「地域のファン」、「市民のファン」をつくること掲げ、認知度向上や商品開発等の取り組みを推進し、魚のまちの再生を進めます。

##### ①地域商品のファン



- BtoC事業が軌道に乗る
- BtoBの提案力が高まる
- 新たな販売先を確保

##### ②地域のファン



- 地域に集客する
- リピーターを確保する
- ファンと地域の交流

##### ③地域内のファン



- 产地を維持する
- 将来の担い手、ファンをつくる

### 取り組み成果

#### 養殖事業

活動の成果により令和4年度から漁業権を取得。釜石はまゆりサクラマスと商標登録し、養殖の事業化がスタート。

サクラマスは国内トップクラスの養殖生産量を維持しており、R7年度水揚げ量は256t(前年比1.8倍増)さらに次年度に向けては11月下旬に海面養殖のための種苗投入を行っており、水揚量400tを予定。

ギンザケについてもR7年度の水揚げ量は456t(前年比2.5倍増)、次年度は同じく水揚量600tを計画している。



#### プロモーション活動

釜石はまゆりサクラマスのPR活動を継続中

- ・釜石市内飲食店でフェアを開催
- ・仙台の市場でPRイベント実施
- ・東京駅構内専門店にてサクラマス握り寿司販売
- ・三陸鉄道、沿岸地域の養殖サーモン生産地とのコラボ企画(サーモンツアー)開催



## 3 現状の課題

### ①プラットフォームの運営と活動

- ・サーモンに続く新規研究活動テーマが誕生しない
- ・大型の研究活動資金が獲得できていない
- ・勉強会等の参加者が固定化し、活動に向けた議論が活性化しない

### ②研究開発及び事業化にむけて

- ・サーモン養殖の新規着業者が増加せず、養殖生産の拡大が進まない
- ・内水面養殖業者が生産するサーモン種苗が不足し、安定した種苗の確保が難しい
- ・サクラマスと他のサーモンとの差別化が明確でない
- ・釜石市民が共有できる地域ブランド魚になっていない
- ・継代飼育による育種では優良種苗の開発まで時間がかかる

## 4 今後の展望

### ①プラットフォームの運営と活動

- ・他地域・異分野企業・研究機関との連携強化
- ・養殖に関する新たな研究開発テーマの発掘
- ・新規会員による新たな研究コンソーシアム創出
- ・他のプラットフォームとのコラボレーションを模索

### ②研究開発及び事業化にむけて

- ・漁場を共有する漁業協同組合との調整と生け簀整備費等の支援による海面養殖業者の普及拡大
- ・地域と一体となった市内飲食店等でのメニュー開発
- ・県内外のご当地サーモンとのコラボレーション
- ・最新の育種技術を活用した優良種苗供給体制の構築
- ・サケふ化場を利活用による沿岸地域での養殖用種苗生産体制の構築と新たな漁協の収入源確保

## 問合せ先

さんりく養殖産業化プラットフォーム(事務局: 岩手大学釜石キャンパス内)  
(TEL: 0193-55-5691 HP:<https://fishfactory-pf.com/>)

